

# 平成29年度 かしわらっ子はぐくみテスト結果概要

【調査目的】学習指導要領に示された学習内容に対する児童の学習到達・定着度を調査し、その結果から学校の取組みについての検証を行い、教育活動の工夫改善を図る。  
また、本市の教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

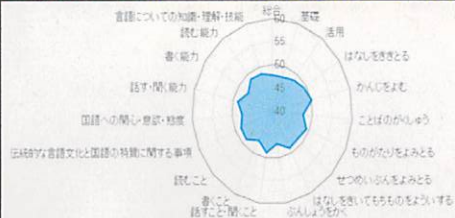
【調査日】平成29年12月12日(火)・13日(水)のいずれか1日

【調査内容】○教科に関する調査・・・国語：主として知識と活用に関する問題、算数：主として知識と活用に関する問題  
○質問紙調査・・・生活習慣や学習環境等に関する調査(児童生徒質問紙調査)

【調査対象】市内11小学校(小学1年生～6年生) 3,232名

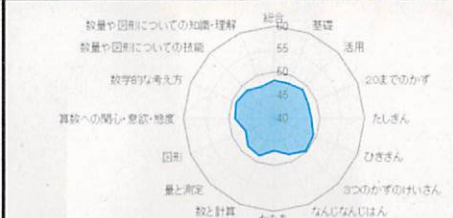
## 平成29年度の結果概要

1年(国語) 平均正答率 全国：市 = 81.2：77.4



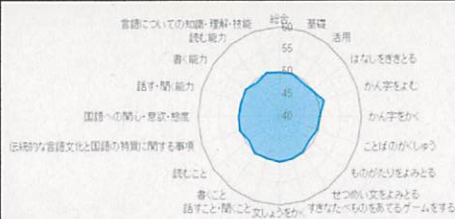
全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況です。問題の内容は、「ぶんしょうをかく」に課題がみられます。また、領域「書くこと」、観点「書く能力」に課題があるといえそうです。  
「楽しみながら書く」ような体験を積む必要がありそうです。

1年(算数) 平均正答率 全国：市 = 80.2：77.4



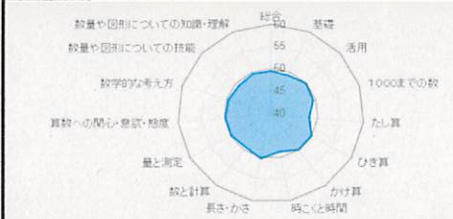
「基礎」に課題がみられます。問題の内容は、「かたち」に課題があるといえそうです。  
具体物、学習用具等を用いて数の感覚を体験的に身に付ける体験を積む必要がありそうです。

2年(国語) 平均正答率 全国：市 = 82.8：82.6



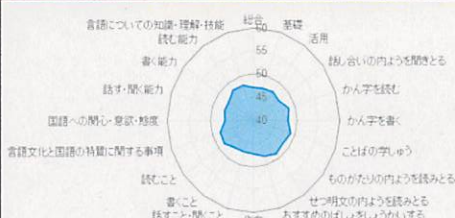
全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況です。問題の内容は、「かん字をよむ」に成果がみられます。漢字の高い定着度がうかがえます。  
引き続き、基礎基本の定着を大切にするとともに、長い文章を読む体験を積むことが大切です。

2年(算数) 平均正答率 全国：市 = 70.8：71.8



全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況です。問題の内容「たし算」「時ごとと時間」に課題がみられます。  
基礎基本の定着をしっかりと図っていく必要がありそうです。

3年(国語) 平均正答率 全国：市 = 76.1：71.3



全国平均を下回り、課題があるといえそうです。問題の内容は、「話し合いの内ようを聞きとる」と「作文」に大きな課題があるといえそうです。「国語への関心・意欲・態度」についても課題がみられます。  
楽しみながら読んだり書いたりする体験を積む必要がありそうです。

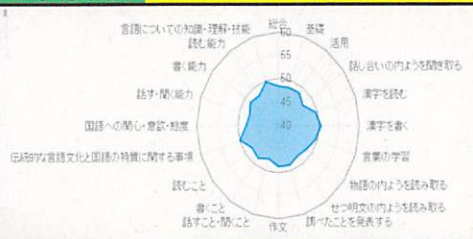
3年(算数) 平均正答率 全国：市 = 70.0：65.2



全国平均を下回り、課題があるといえそうです。問題の内容は、「長さ」と「10000より大きい数」より大きい数、領域「量と測定」、観点「数量や図形についての知識・理解」に課題があるといえそうです。  
基礎基本の定着をしっかりと図っていく必要がありそうです。



**4年(国語) 平均正答率 全国 : 市 = 74.7 : 71.9**



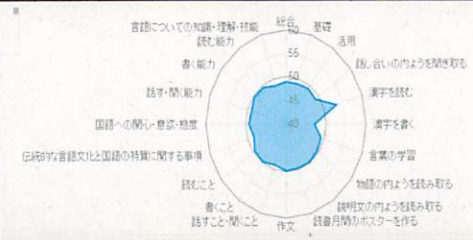
「漢字」には一定の定着度が見受けられますが、「物語の内よを読み取る」「せつ明文の内よを読み取る」に課題がみられます。  
さまざまな種類の文章に親しむ体験を積む必要がありそうです。

**4年(算数) 平均正答率 全国 : 市 = 67.4 : 63.0**



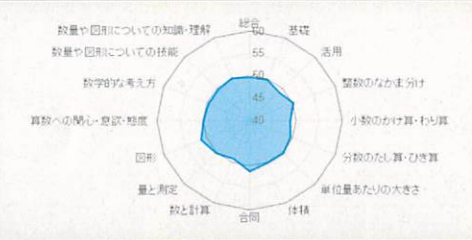
全国平均を下回り、課題があるとさえそうです。内容「億と兆・千の表し方」はおおむね良好ですが、「活用」には課題がみられます。  
基礎基本の定着をしっかりと図るとともに、自分の考えを図などを用いて説明するような体験を積む必要がありそうです。

**5年(国語) 平均正答率 全国 : 市 = 73.3 : 71.6**



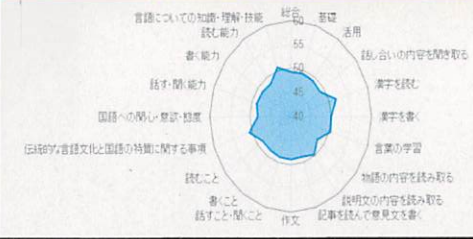
全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況です。「漢字を読む」においては高い定着度がうかがえますが、「漢字を書く」には課題があるといえそうです。  
漢字の読み書きをバランスよく学習する必要がありそうです。

**5年(算数) 平均正答率 全国 : 市 = 61.2 : 61.4**



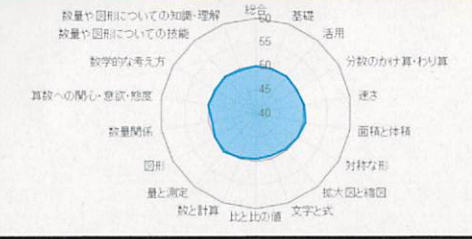
全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況です。特に、「図形」「合同」においては高い定着率がうかがえます。  
今後も基礎基本の定着を大切にするとともに、それらを活用するような体験を積む必要がありそうです。

**6年(国語) 平均正答率 全国 : 市 = 75.9 : 74.8**



全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況です。「漢字を読む」「漢字を書く」「言葉の学習」などの基礎的な学習においては高い定着度がうかがえますが、それらを活用する「物語の内容を読み取る」や「書くこと」には課題がみられます。  
自分の考えを文章でまとめる体験をできるだけ多く積む必要がありそうです。

**6年(算数) 平均正答率 全国 : 市 = 71.9 : 71.8**



全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況です。  
今後も基礎基本の定着を大切にするとともに、それらを活用するような体験を積む必要がありそうです。

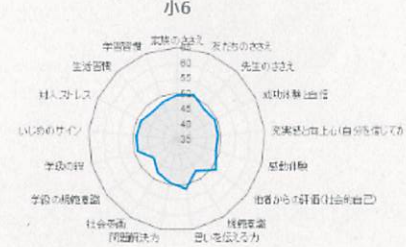
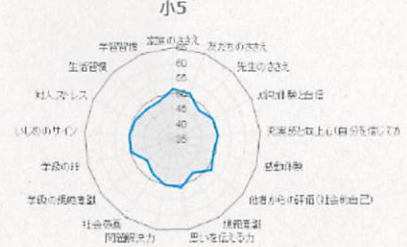
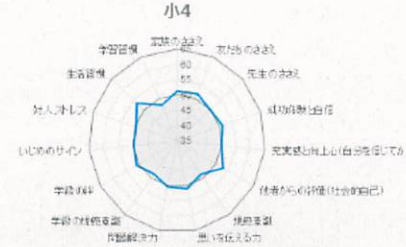
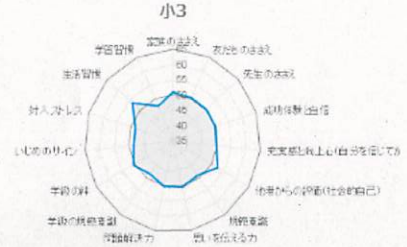
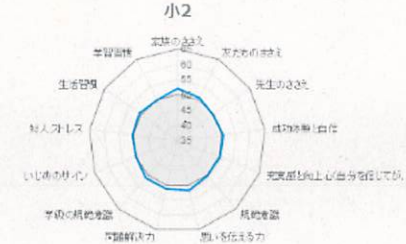
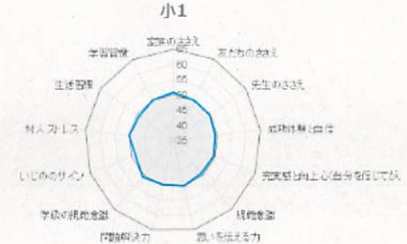
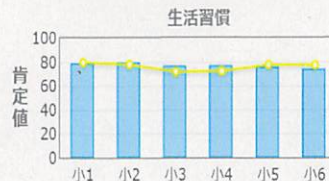
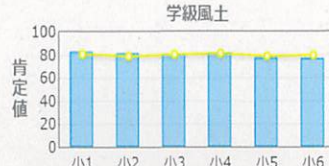
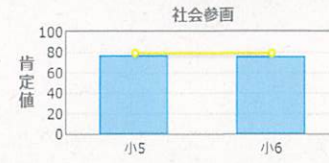
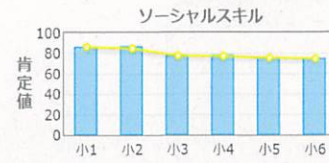
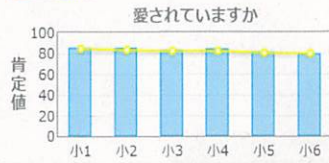






# i チェック(質問紙調査)

■自治体 ■全国



～考察～

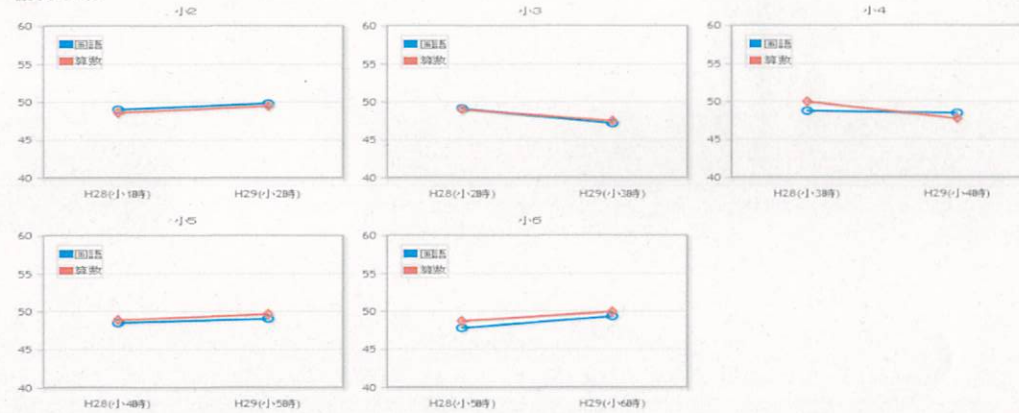
リスク管理に関ることがらについては、学年が上がるにつれて向上してよい傾向にあります。

一方、自己肯定感や学習習慣・意欲は学年が上がるにつれて下がっています。年齢が上がるにつれて、学習面においても生活面においても困難な場面に出くわしたり、うまくいかないが増えるものです。そんな中でも小さな成功体験や充実を実感できる体験を少しでもたくさん積むことが大切です。また、学校で学習したことを家庭でしっかり復習する習慣をつけることが大切です。学年が上がるにつれ、自分で計画を立てて学習することが大切になります。



## 経年変化(平成28～29年度同一集団の変化)

標準スコア



～考察～

2年生、5年生、6年生で国語、算数ともに標準スコアが向上しています。一年間の学校や家庭の取組みが功を奏したといえます。柏原市としても、書く場面を多く取り入れ、子どもたちが主体的に考える授業を大切にしてきました。今後も引き続き、これらを大切にしなが学力向上を推進していくことが有効であると考えます。

しかしながら、3年生、4年生は少し伸び悩んでいます。低学年の時には具体的なことを多く扱う学習内容も、だんだん抽象的思考が求められるものに変わってきます。この点は、学習意欲にも関係があると考えます。今後も引き続き、丁寧な指導と、スモールステップのある指導を心掛けていく必要があるようです。

## 柏原市の大切にすること

～教育委員会がすべきこと～

- 教員の指導力の育成
- 「書く力」の育成をねらった具体的な施策の提案及び実施
- 家庭学習の取組み好事例の収集及び学校への周知

～学校がすべきこと～

- 授業改善の推進
- 「書く力」の育成に向けた取組みの推進
- 幼小中の連続性を意識した取組みの推進

～家庭におねがいすること～

- 基本的生活習慣の定着
  - ・決まった時間に寝起きしてリズムを意図的につくる。
  - ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠をとるよう促す。
  - ・朝ごはんを食べるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる。

○家庭学習習慣の定着

- ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める。
- ・毎日宿題ができているかを確認する。

○スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り

- ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について、家庭内でよく話し合い、ルールを決める。